

地域力を活かした 災害に強い

まちづくり

1 序論

①はじめに

平成16年に発生した大型台風22号、23号の対応を通じ、大規模な自然災害においては、マニュアルでは対応できない状況もあることを思い知らされました。

この経験から生じた「何とかしたい」という思いは、アントレに挑戦するきっかけとなりました。

掲げたテーマは「地域力を活かした災害に強いまちづくり」。昨今の防災に対する市民意識の向上を背景に、検討テーマとして採用されることになり、辞令交付から約半年間、各区役所から集まった4人のメンバーとともに事業化に向けた検討が始まりました。

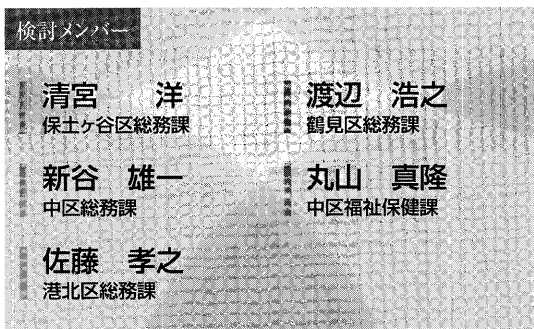
11月の市長への最終プレゼンを経て審査結果が出ましたが、「地域力

を活かした災害に強いまちづくり」というテーマに、賛同して頂いた多くの方と知り合えることができ、意見交換などを通じて様々な見識を学ばせていただきました。

本稿は、「地域力を活かした災害に強いまちづくり」というテーマの抱える課題に、どのように行動していくのかということと、また、我々がアントレから得ることができた財産及び取り組みに対する難しさを概観し、半年間の我々の取り組みを振り返るものであります。

②メンバー応募動機

「丸山」現在、担当している福祉・保健の分野と、今回テーマとなった「災害に強いまちづくり」とは関係性があり、「住民自治」をキーワードに新たなまちづくりを模索していきたい。



2 提案内容

本事業では、地域の特徴に合わせた、横浜地域防災スクールを設立し、(図1)これまで防災活動に関わりの少なかったグループの参加を促進する。それにより、既存の防災組織と地域社会を形成するその他の組織が防災をテーマとしたネットワークを築いていくことを目指す。

横浜地域防災スクールは、商店・市民グループなどの組織がグループ単位で参加し、防災に関することを学び・実践する場である。

この防災スクールの講師としては、専門家・防災機関の他、障害者およびその支援団体、地域防災拠点運営委員会の方々を想定している。

参加グループは、実践講座の受講や防災に関する情報提供を受けることにより、災害時に主体的に活動できることを目指す。

グループのイメージとしては、料理サークルは避難場所での炊き出しや栄養管理、オートバイサークルは非常時の連絡、物資運搬への協力、介護ボランティアは要援護者対策子育てサークルは子どもの安全確保など、災害発生時に市民グループの特性にあった活動を展開できることを想定している。

地域防災スクールにおける営業活動の特徴は、出張訪問による配布、地域へ向う説明を加えながらの配布を実施するところにある。スタッフが防災を売り込む営業マン・セー

ルスマンとなり行う。

モデル地区は保土ヶ谷駅周辺地区である(図2)。この地区は昨年台風被害により、今井川の溢水被害があったほか、駅の東西に急傾斜地や狭い道路が多く、また鉄道により地域が分断されるなど防災上の課題が多い地区となっている。

この地区は、多くの住民・学生が駅を利用しており、様々な業種の商店・企業がある。また、力強い住民グループがあることが特徴である。こうしたグループの地域防災活動への参加をとおし、防災上の課題を軽減していく必要がある。

この地区において商店・企業が、横浜地域防災スクールを中心に地域と防災をテーマとした交流を深めることにより、地域と商店・企業との災害時協定の締結、防災を「ウリ」にした商店街づくり、まちづくりや非常持ち出し品の売買を通じた住民意識啓発を行う。

3 審査結果

①中間発表 質疑

・日常から防災に取り組む視点はいが、本当にできるのかまだ抽象的という気がする。

・今まで防災訓練に参加してこなかった人々に、どう参加してもらうかは大きな関心事。商店街は、行政との関係はすでにある。商店街を介して新しい裾野へ広がるなら価値がある。今まで参加してこなかった人に実

際どこまでアプローチできるか、もう少し突っ込んで聞かせてほしい。現実として難しいから残っている課題だが。

↓趣味のグループへの呼びかけなど、新しいチャンネルを活用したい。

・システムづくりより、行政が市民の中へ出向くことを考えてもよいのでは。

↓職員がPRに出向くことも考えている。

②最終報告 質疑

・来年度の事業で、要援護者の安否確認システムが複数区から上がっている。

↓今回の提案は、地域防災拠点を中心とした防災体制を補完する意味がある。

・教育改革会議の委員を務める鈴木先生が、各地の小中学校でプログラム学習として、防災地図づくりを進めているが、こうした方と情報交換してもよいのではないか。

↓今後事業化にあたって連携していきたい。

・地域防災スクールのモデル地区を、保土ヶ谷駅周辺にしているのはなぜか。

↓防災上の課題の多さに加え、駅利用者など多くの人々に事業を知ってもらおうという波及効果も考えた。

・今井川周辺のように水害の多いところは、関心はあると思うが、全市

的には濃淡の差がある。地震も考えられる災害の性格による工夫が必要。来年度以降の発展形の想定は。

↓局のスタッフがモデルの全市の普及を担い、区のスタッフが区内の他地区への普及を担う。

・防犯にもつなげられるのか。
↓将来的に防犯組織との連携も考えられる。

・サークル活動をするような若い人が災害へ備えることはとても大切。

・サークル活動は着目としておもしろい。これからは、特定の人に様々な役割を担ってもらうのではなく、色々な人に担ってもらうことが必要。得意分野を活かすのはおもしろい。

③ハマリバ収獲祭

阪神・淡路大震災のCG映像の上映、事業提案内容の報告のほか、検討メンバーの渡辺が、視聴覚障害者の立場から、災害時の要援護者対策の重要性について、手話により次の内容のプレゼンテーションを行いました。

「ある日、電車の中で本を読んでいた。何かを聞きたくて立っている人が座っている私に聞きます。隣の人が話している素振りだったので、顔をあげるとその人は私を睨んでいたのです。この時、ああそうか、何か聞こえなかったのかなと気づくのです。周りの人は私をジロジロ見るだけです。」

災害時だけでなく、普段の生活の中で無反応の人がいたら、それは耳

が聞こえない人かも？と思ってください。手話が必要だ！どうしよう？と思う前に出来る方法を考えましょう。状況に応じてメモに書いて渡すだけでも助かります。

今回発表した横浜地域防災スクールでは、このような要援護者に対する知識の習得も可能です。防災スクールは、災害時に自分の得意分野を生かすとともに、ノーマライゼーションの具現化にも貢献する事業です。」

↓会場評価では、見事、検討チーム中2位を獲得しました。

4—メンバーの振り返り

「清宮」市長、副市長へのプレゼンという、ハードな提案事業でしたが、予算、人員要求等、活動のプロセスを学ぶことができ、貴重な経験ができました。「日常の中に非日常を」という言葉があるが、検討を通じよい刺激を得られた。

「渡辺」あつという間に終わってしまった！これが正直な感想です。事業化見送りになったが、全く縁のない職場の人と一緒に検討したことは何よりも大きな財産です。チャンスをくださった職場の皆様及び横浜市にあらためてお礼を申しあげます。「どうすればよいだろうか？」と常に問題意識を持つと共に疑問&解決&行動&反省という反復の積み重ねがアントレであり、改革そのものだと私は思います。

「丸山」アントレへの挑戦は、2つの点で大きく難しさがあると感じました。1つ目は、担当業務を抱えながらの挑戦であるため、職場の理解と後押しが不可欠であること。2つ目は、テーマを所管する部署と競合関係になりやすいこと。これらの難しさを乗り越えて、事業化を成功させるためには、予め十分に構想を温めておくことも大切と思いました。

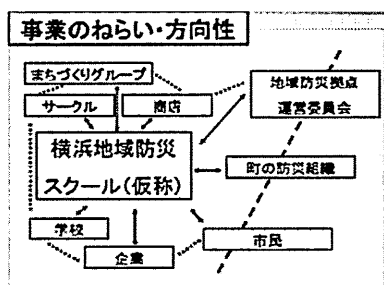


図1 地域防災スクール概要

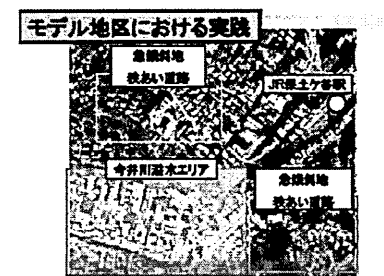


図2 モデル地区概略図

「新谷」地域防災については、課題が多く、難しさを再認識しました。検討が十分にできなかった面もあり、後悔も残ります。検討メンバーをはじめ、さまざまなネットワークを作ることができたことは、自分にとって大きな財産になりました。

5—おわりに

今回は、事業化見送りという結果になりましたが、地域防災力向上というテーマは、必要性が高く、すべての自治体職員が共有すべきテーマであります。

今後についても、それぞれの職場において、地域との協働、地域力強化を念頭に、仕事に取り組みたいと考えております。

最後に、検討にご協力いただいた、横浜国大の岡西さんをはじめ、ヒアリング先の皆様には、ここにお礼申し上げます。

△文責：メンバー一同▽